

## 令和8年度 第1回 玉野市観光振興会議 議事録

日時：2026年9月28日（月）10:00～

場所：玉野市産業振興ビル 3F 展示・会議室

出席：委員12名中10名出席（会議成立） ※委員名簿は別紙参照

事務局：玉野市産業振興部観光課／地域人財基盤（計画策定受託）

---

### 会議の目的

これまでの検討（ワーキング会議・事業者ヒアリング等）を踏まえて事務局が作成した、玉野市観光振興計画の「アクションプラン（案）」について説明し、委員の皆様から意見をいただいた。今回は、3つのカテゴリーのうちA（観光地の魅力と機能の強化）とB（地域集客と発信力の強化）を中心に議論を行った。

---

### 全体像

#### <確認・共有事項>

- ・ 施策は「A：観光地の魅力と機能の強化」「B：地域集客と発信力の強化」「C：地域観光推進基盤の整備」の3カテゴリーに整理し、その中に11の施策軸を振り分ける体系で進めることを確認
- ・ ゲートウェイエリア（宇野駅・宇野港周辺）を最も重要な拠点エリアとして、まず優先して取り組む方針を確認
- ・ アクションプランは、11の施策軸に沿って考えられる取り組みを「最大限（MAX）」で洗い出したものであり、実行する主体（誰がやるか）や優先順位はこれから整理する段階であることを共有
- ・ 計画は行政（市）が方向性を示すものであり、個々の事業は観光協会・民間・各団体などが担う、という役割分担の考え方がおおむね共有された

#### <今後の検討・対応事項>

- ・ 一案として、エリア・ターゲット・時間軸を組み合わせた考え方などを、計画の中にどう表現するかを整理する
- ・ 観光協会を中心とした中間支援組織（DMO的な機能）の計画上の位置づけを、引き続き議論する
- ・ 事務局が本日の意見を計画案に反映し、次回（2月予定）の会議でより具体的な案を示すことを検討

---

### 1. 開会・委員紹介

#### <確認・共有事項>

- ・ 事務局（観光課長）の司会により開会。あいさつとして、豊かな自然などの観光資源を最大限生かした新たな計画づくりを進めること、計画を「絵に描いた餅」にせず、誰が主体となって実行するか議論が欠かせないこと、行政だけでなく事業者・市民・関係団体と一緒に実行する基盤としたことが述べられた
- ・ 新たに就任した委員として、大野委員（玉野市商店団体連合会 会長）、濱田委員（岡山県産業労働部観光課 課長）、中嶋委員（玉野市産業振興部 部長）が紹介された
- ・ 中村会長（山陽学園大学 地域マネジメント学部 学部長）より、地域で草の根から生まれている取り組みの力を計画に生かしていきたいとのあいさつがあった
- ・ 委員12名中10名の出席により、会議が成立していることが報告された

## 2. 計画のこれまでの経緯と全体の構成

---

### <確認・共有事項>

- ・ 事務局（地域人財基盤）より、資料に沿ってこれまでの経緯を説明。データ分析や事業者ヒアリングを通じて10の課題（通過型の観光地、体験コンテンツ不足、オンライン対応の遅れ、二次交通、観光データ不足、推進体制など）を整理し、それに対応する11の施策軸と5つのエリアを設定した
- ・ 5つのエリア：ゲートウェイエリア（宇野駅・宇野港周辺）、渋川・王子が岳エリア（自然・景観）、サイクルパークエリア（競輪場周辺）、歴史文化と食財エリア、自然レジャーエリア
- ・ 総合計画の改定にあわせ、基本理念を「人が集い、にぎわいあふれるまち」、基本目標を「多くの人に選ばれ、滞在してもらえるまちへ」と整理した
- ・ 前回の会議で「施策の数が多く、上のレベルで整理できていない」との意見があったことを受け、3つのカテゴリーに再編した
- ・ Cには、働き手・専門人材の不足への対応、観光マーケットデータの整備、観光地域づくりの推進体制の整備の3つを整理している

## 3. カテゴリーA「観光地の魅力と機能の強化」の説明

---

### <確認・共有事項>

- ・ ゲートウェイエリアの再構築（6項目）：エリアブランディング、回遊性の高い複合施設の整備、飲食・物販などを集めたマーケット施設（「港町」をテーマにした構想）など
- ・ 滞在価値・体験価値の強化、宿泊機能の強化（6項目）：通年型のコンテンツ、長く滞在するための滞在パッケージ、体験拠点の強化、宿泊施設の誘致など
- ・ 地域資源の積極活用と投資獲得（4項目）：競輪場など既存施設を生かした投資の呼び込み、北部地域の農業・産業資源の商品化、渋川エリアのブランディングの見直しなど
- ・ 移動支援・交通の確保（5項目）：公共交通のアクセス強化、船・鉄道・バス・タクシーの連携、配車アプリなどのDX活用、移動そのものを楽しむツアーの企画など
- ・ 資料内の「例」は、アクションプランを理解していただくための参考として記載したものであることが説明された

## 4. エリアの優先順位とターゲット

---

### <確認・共有事項>

- ・ 小野委員より、すべての地域に同じ施策が当てはまるのか、地域ごとに課題は違うのではないかとの問題提起があった。また、実際には外国人よりも県外・市外からの利用者の方が多い施設もあり、そうした方への対応も必要との意見があった
- ・ 事務局より、すべてのエリアが大事であるが、取り組む順番や力の入れ方には濃淡が必要であり、瀬戸内国際芸術祭をきっかけに多くの観光客が訪れているゲートウェイエリアを最も重要な拠点として、まず進めたいとの説明があった
- ・ あわせて、インバウンドだけを対象にしているわけではなく、例えば深山公園は県内客が中心であるなど、エリアごとにターゲットが異なること、県内・県外の方にもエリアを回遊してもらう取り組みが必要であることが説明された

## 5. 施策を実行する主体

---

### <確認・共有事項>

- ・ 岡委員（玉野市公園緑化協会）より、30年前は「玉野といえば渋川」で深山公園の名前はあまり上がらなかったが、渋川に負けない場所をつくろうと、みどりの館みやまと一緒に深山公園を盛り上げてきた経緯が紹介された
- ・ そのうえで、アクションプランの項目を「誰が、どのように」進めるのか（委員会なのか、観光課なのか、誰が中心になるのか）によって話が大きく変わる、との指摘があった
- ・ 事務局より、現段階は「どの地域で、どんな施策が必要か」という中身を固める段階であり、実行主体は後で決めるという進め方で進めてきたとの説明があった
- ・ 優先エリアを決めても、そこに担い手がいなければ進まないという課題が確認された

## 6. ゲートウェイエリアの再開発と「食」の観光資源化

---

### <確認・共有事項>

- ・ 宮原委員（玉野商工会議所 観光交通委員会）より、直島へ向かう観光客の多くが宇野港を利用しており（昨年は約7割）、今後も選ばれる港にすべきとの意見があった。宇野港周辺は約30年前からほとんど姿が変わっておらず、今の来訪者のニーズに応える港の再開発（マルシェ施設など）を計画の中で具体的に示すべきとの提案があった
- ・ 宮原委員より、観光客の関心は「何を食べるか」に集まるため、食には必ず力を入れるべきとの意見があった。番田芋やみかんなど良い素材はあるが、それだけで人を呼べるかという点と弱い、との指摘もあった
- ・ イノシシの被害など地域の課題を逆に生かし、ジビエなどのようにして、地域課題の解決とストーリーを組み合わせたユニークな食のコンテンツ開発が提案された
- ・ 事務局より、港の再開発については計画の中で意図が伝わる表現を検討すること、肉・魚と社会課題を組み合わせたストーリー性のある食の取り組みは県外客を呼ぶきっかけになるため、計画に反映していきたいとの回答があった
- ・ 市長より、渋川観光協会では地域の高齢化などにより藤まつりが近年開催できていないなど、課題は認識しているものの、まだ具体的な手が打てていない現状が共有された

### <今後の検討・対応事項>

- ・ 港の再開発（ゲートウェイエリア）の記述を具体化する
- ・ 食（メインディッシュとなるようなもの）をアクションプランの施策として盛り込む

## 7. カテゴリーB「地域集客と発信力の強化」の説明

---

### <確認・共有事項>

- ・ 周辺地域との連携（6項目）：倉敷・高松・直島・岡山・関西方面・鉄道利用者などとの連携により、玉野を通過されずに立ち寄ってもらい仕組みをつくることが大切との認識。周辺地域との連携が意外と少ないことも課題として挙げられた
- ・ オンライン市場への対応：地域の情報を発信するコンテンツの量産、OTA（オンライン旅行予約サイト）への掲載強化、Google マップの情報整備、AI 検索への対応、写真や口コミの充実、地域の方々による情報発信の後押しなどを検討
- ・ インバウンドの獲得と受入環境の整備：多言語対応、海外の旅行会社・メディアへのプロモーション、キャッシュレス決済対応、文化・習慣の違いに対応するためのガイドや地域向け研修なども今後の課題
- ・ 閑散期・繁忙期の差の解消：渋川・王子が岳エリアの自然体験の通年化、冬のコンテンツの充実、平日と週末の集客の差への対策などの検討

## 8. 二次交通の整理

---

### <確認・共有事項>

- ・ 宮原委員より、海上タクシーを利用して瀬戸内島嶼部へ向かうお客様が多いが、現状は個人でのチャーターが中心であり、定額で乗れるフェリーのような仕組みがあると良いとの意見があった
- ・ 中村会長より、大野委員の意見も踏まえ、エリア・時間軸・ターゲットを組み合わせた施策を考える視点が必要ではとの意見があった
- ・ 事務局より、ターゲットの設定含め、表現を整理し、計画に落とし込めるようにしたいとの回答があった

### <今後の検討・対応事項>

- ・ エリアごとのターゲット整理を行い、アクションプランに反映する

## 9. SNS・Google マップを活用した情報発信

---

### <確認・共有事項>

- ・ 小野委員より、SNS で発信力のある個人（インフルエンサー）の活用について、どのくらいのフォロワー数があれば影響力があるのか、具体的な数字を知りたいとの質問があった
- ・ 事務局より、以前はトリップアドバイザー、現在は Google マップの情報が重要であること、口コミや情報が少ないと OTA や AI 検索で見つけてもらえないことなどが説明された
- ・ 事務局より、玉野市公式インスタグラムのフォロワーは現在約 7,000 人で、1 万人を超えると多くの方に見てもらえると言われているため、1 万人を目標に取り組んでいることが共有された
- ・ 一方で、SNS のアルゴリズム（表示の仕組み）は頻繁に変わっており、現在はフォロワー数よりも、ハッシュタグの活用や良い内容の投稿の方が重要との意見もあった
- ・ 岡委員より、深山公園では桜の時期に 1 日約 7,000 台の車が訪れ、みどりの館みやまによるキッチンカーの手配など周辺の工夫で来訪者を楽しませていること、Google マップの情報を正しく整えた結果、口コミが 1,570 件以上・評価 4 を維持していることが紹介された
- ・ また、深山公園の SNS はフォロワー約 2,400 人だが、ハッシュタグの工夫により 2～3 万人に見られており、雨の日の犬のイベントでも約 1,000 人が来場した事例が共有された

### <今後の検討・対応事項>

- ・ SNS 活用について、フォロワー数・リーチ数など具体的な目標の数字の整理も案として検討

## 10. 住民の生活との調和（夜間の騒音など）

---

### <確認・共有事項>

- ・ 大野委員（玉野市商店団体連合会）より、宿泊施設の周辺で、夜 11 時半ごろに近所の家インターホンを押して回る、騒音が出るなど、住民の生活に影響が出ている事例が紹介された。商店主は地域の方と共に暮らしながら商売をしており、住民との関係を大切にしてきたこと、他地域では条例による対応事例もあることが述べられた
- ・ 事務局より、人が来ても地域で暮らす方の生活が脅かされることはあってはならず、バランスを取ることは難しいが、意識して計画を作る必要があるとの回答があった
- ・ 夜間の取り締まり（条例など）について踏み込んだ議論はまだしておらず、先進事例を確認しながら研究が必要との考えが示された

### <今後の検討・対応事項>

- ・ 夜間の騒音や近隣トラブルへの対応について、他地域の先進事例の調査も必要ではないか、との認識

## 11. 推進体制（中間支援組織・DMO）

---

### <確認・共有事項>

- ・ 中村会長より、C（推進基盤の整備）にも関わる論点として、アクションプランにはそれぞれ事業主体と財源が必要であり、全体を推進する主体と、個別の施策を推進する主体の両方を考える必要があるとの整理が示された
- ・ 観光協会の立場より、数年前に DMO 化を目指したが、DMO 化にはまず観光振興計画が必要であったことが紹介された。行政が計画として方向性を示し、実際の施策は観光協会やその他の団体が実行するという形で良く、動き出す段階では観光協会が主体となって取り組みたいとの意見があった
- ・ 事務局より、観光協会の名前を DMO に掛け替えるだけでは不十分であり、中身を整える必要があること、行政は人事異動で担当が変わるため、行政と民間をつなぐ中間支援組織が中心となって観光を進める必要があるとの考えが示された
- ・ あわせて、観光協会を中心に中間支援組織をつくり、計画の中で位置づけていくことを市として一つの結論にしたいとの考えが示され、そうした組織の必要性や、どんな人材がいると良いかについて委員の意見が求められた
- ・ 金川委員（みどりの館みやま）より、以前、瀬戸芸に間に合わせるために人を集めて組織をつくろうとしたがうまくいかなかった経験から、すでにある観光協会という組織を市・観光課がどう生かして施策を進めるかに力を注いでほしいとの意見があった
- ・ 小野委員より、エリアが広く課題もエリアごとに違うため、実際の運営は難しい面もあるとの意見があった

### <今後の検討・対応事項>

- ・ 観光協会を中間支援組織として位置づけ、実行体制を具体化する方向で計画を整理する

## 12. 会長総括（計画の位置づけと財源）

---

### <確認・共有事項>

- ・ 計画は市が作るものであり、個々の施策は主体がそれぞれ変わるため、すべてをこの場で決めることは難しい。本日の意見（港の再開発、食の必要性など）は大きな方向性として計画に反映していく
- ・ 観光振興はまちづくりそのものであり、行政・市民・関係団体・企業が一緒に盛り上げていくことが必要
- ・ 行政にとって予算の確保は大きな課題であり、「計画に書かれている」ことが予算を取るうえでの大きな力になる。そのため、夢のあるアイデアも含めて幅広く盛り込んでおいた方が、後の動きが取りやすい（3年後・5年後に実現できたかの検証は必要）
- ・ 体制面では DMO（観光地域づくり法人）が必要であり、必ずしもうまくいっている例ばかりではないものの、玉野市では既存の組織である観光協会をうまく生かしながら進めていくことが必要との意見
- ・ 財源面では、観光庁などが多くの予算（補助メニュー）を用意しているため、それを読み解いて施策に当てはめる人・仕組みが必要。また、前回の観光塾で観光カリスマの山田氏から指摘があったように、宿泊に関わる財源（宿泊税など）も一つの考え方として検討の余地がある

## 13. 今後の予定

---

### <確認・共有事項>

- ・ 事務局より、本日の意見を作成中の観光振興計画に反映できるよう修正を検討し、次回（2月予定）の会議ではより具体的な案を整理し、示すことが説明され、閉会した

## 別紙 玉野市観光振興会議 委員名簿

| No. | 役職  | 所属                   | 職名                   | 氏名     | 備考                |
|-----|-----|----------------------|----------------------|--------|-------------------|
| 1   | 会長  | 山陽学園大学<br>地域マネジメント学部 | 学部長                  | 中村 聡志  |                   |
| 2   | 副会長 | 公益社団法人玉野市観光協会        | 会長                   | 山根 一人  |                   |
| 3   | 委員  | 一般社団法人玉野青年会議所        | 理事長                  | 堀 徳成   | 代理：副理事長<br>宇佐美 沙希 |
| 4   | 委員  | 玉野商工会議所 青年部          | 直前会長                 | 小野 寛子  |                   |
| 5   | 委員  | 玉野商工会議所 観光交通委員会      | 委員長                  | 宮原 一郎  |                   |
| 6   | 委員  | 玉野市商店団体連合会           | 会長                   | 大野 敏明  |                   |
| 7   | 委員  | 株式会社ダイヤモンドソサエティ      | 瀬戸内マリンホテル ゼネラルマネージャー | 妹尾 明男  |                   |
| 8   | 委員  | 有限会社みどりの館みやま         | 取締役支配人               | 金川 洋一  |                   |
| 9   | 委員  | 公益財団法人玉野市公園緑化協会      | 常務理事兼事務局長            | 岡 秀雄   |                   |
| 10  | 委員  | 岡山県産業労働部観光課          | 課長                   | 濱田 祐一  |                   |
| 11  | 委員  | 岡山県土木部港湾課            | 課長                   | 西牧 賢一郎 | 代理：副参事<br>日下 貴博   |
| 12  | 委員  | 玉野市産業振興部             | 部長                   | 中嶋 英生  |                   |

事務局：玉野市産業振興部観光課

計画策定受託：一般社団法人地域人財基盤